

# 親子聖書日課

[日]もっと欲しいと思う心は、自分のために富を蓄え、神も人も思わない自己中心の罪に陥ります。「人の命は財産によらない」この言葉を忘れる時、貪ったり、思い煩ったり、人と争ったりします。人の命は主によります。天に富を積みましょう。

[月]「目を覚ましている」とは、いつも信仰生活に励むことです。再臨の主は、思いがけない時に来られます。その時、慌てて主に仕えようとしても、遅いのです。いつ主が来られてもいように、忠実に仕え、与えられた賜物を喜んで用いましょう。

[火]主は地上に平和をもたらすために来られましたが、それは一時しのぎの妥協的な平和ではありません。神の義を否定する家族との分裂は止むをえません。しかし、これが家族との救いの第一歩となりますから、分裂を恐れてはいけません。

[水]「ある人」神、「いちじくの木」私達、「園丁」主イエスに置き換えて下さい。主を信じて、御霊の実を結べないことがあります。切り倒されても仕方がありません。しかし、主は必死にとりなして下さるので、実を結べるのです。主に感謝しましょう。

[木]自分の小さな信仰に嘆くことはありません。「からし種」一番小さな種が木になり、「パン種」僅かでも粉全体を膨らませることができます。信仰の大きさは問題ではありません。問題は「これを取る」かどうかです。取れば、必ず、成長します。

[金]上席を好む人は、そこに座る資格があると思ひ込みました。しかし、主の前では救われる資格のある人など一人もいません。いつも末席(謙遜)に座りましょう。但し、礼拝は上席(前列)に座ることが、恵みを頂く秘訣です。さあ、始めましょう。

[土]宴会への招きを断った人の理由で、共通したことは、招いた方への関心よりも自分の生活への関心の方が大きいことです。それでは神の国に入れません。礼拝は神の国の大祝宴です。この世の招きを断っても、礼拝に出席しましょう。



NO.1952 2026.2/22-28 名前

	聖書	問題	答え
日	ルカ 12:13-34	尽きることのない富をどこに積むべきですか。	
月	12:35-48	すべて多く与えられた者は、どのぐらい求められますか。	
火	12:49-59	私が来たのは地上に何を投ずるためでしたか。	
水	13:1-17	園丁は木の周りを掘って、何をやってみますと言いましたか。	
木	13:18-35	神の国は何に似ていますか。	
金	14:1-14	招待を受けたら、むしろどこに行って座るべきですか。	
土	14:15-35	自分の持ち物をどうしなければ、主の弟子ではありませんか。	
		<b>感想と祈りの課題</b>	